

すくすく

たけのこキッズ 第9号



川崎こどもクリニック

〒597-0102 貝塚市木積656-7

電話：0724-21-2033

http://www.kawasaki-kc.jp

平成17年1月11日発行

インフルエンザ無く年越し

結局当院では1例のインフルエンザもなく年越しとなりました。(年明け後もこの発行日まではまだありません。)私も医者になって19回目のインフルエンザシーズンを迎えています。こんなことは初めての経験です。貝塚市内および周辺の小児科の先生の話の聞いても同様のようです。一方で手足口病やアデノウイルス扁桃炎といった夏季に流行する様な、いわゆる夏かぜの患者さんが目立っています。その他、ウイルス性胃腸炎(嘔吐下痢症)も増えてきています。

水痘の話

水痘(水ぼうそう)はウイルスが原因で起こる病気です。感染後平均15日ほどの潜伏期間をおいて、発熱と赤い小さなブツブツが出ます。このブツブツは翌日には水疱を形成し、4日ほどの経過で痂皮化して(かさぶたになって)治ります。ただ発疹の進行はバラバラで痂皮の隣にまた新たに赤いブツブツが出るというような経過をとりますので、完全に治るまでには結局1週間程度かかるということになります。一方で特に1~2歳までの幼児などでは水疱がすき間もないほどに多数出る、一つ一つの水疱が大人の爪ほどの大きさまで大きくなる、さらにウイルスが頭の中へ入って髄膜炎という状態になるなど重症化する事もあります。現在一般的にはウイルスに効く薬はほとんどなく、かぜなどの治療も症状を楽にする対症療法に終始していますが、例外的に水痘などヘルペス族のウイルスに対しては効果のある薬があります。薬価が高いのが難点といえど、経過を4~5日程度とし軽症化する効果があります。また薬の使用にかかわらず、終生免疫は得られます。なお、もっと確実なのは水痘の予防接種ですが、もともと免疫不全の児でも接種できるよう高度に弱毒化したウイルスを使って作っていますので、ごく軽くなることもあります。



休診のお知らせ

大学に出張するために、申し訳ありませんが、2月5日(土)を休診と致します。また、大阪府医師会予防接種センター出張のため1月25日(火)、2月8日(火)は予防接種についてのみお休みとさせていただきます《通常の診察は行います》。

市販薬と医者薬

あなたの子供さんがカゼをひいたとき市販薬で様子を見ますか、それとも医療機関に受診して薬を処方してもらいますか。

市販のカゼ薬は、いろいろな症状に対応できるように種々の成分を混ぜています。特に最近では従来医者でしか処方してもらえなかったが市販薬でも使用できるようになった成分(塩酸プロムヘキシシンやマレイン酸クロルフェニラミンなど)を配合して高い効果が得られるものが出てきています。このためほとんどのカゼはこれで治る、いわば良くできた「既製品」です。それに対して医者で出すかぜ薬は「オーダーメイド」です。喘息の既往があれば咳を止めてしまう成分は控えめに、痰を切る成分は十分に処方します。また例えば乾いた咳から徐々に痰がらみになってきたという風に症状が変われば当然処方にも変化を付けます。症状にあわせて処方しますので有効成分の種類はむしろ市販薬より少ないのが普通です。したがってかえって副作用が少ない面もあります。



病院を受診するとかえってカゼをもらうこともあります。どちらが良いとか悪いとかは一概には言えませんが、特性を理解して飲ませて下さい。

冬の嘔吐下痢症

この時期に流行する嘔吐下痢症の原因のほとんどはロタウイルス、ノロウイルスなどというウイルスです。ノロウイルスは小型球形ウイルスなどと呼ばれていたウイルスで、魚介類などを介しての食中毒の原因ともなります。便などから家族内で流行することもありますので、おむつ替えやトイレの後、吐物の処理の後などはこまめの手洗いが肝要です。典型的な経過としては1日目には嘔吐、2日目からは下痢となり、この下痢は1週間余り続くこともあります。機嫌が良ければ様子を見ることができますが、機嫌が悪いようならかかりつけ医に受診しましょう。嘔吐が改善しないまま下痢がひどくなれば脱水をきたします。そうなれば点滴をすることもありますが、ほとんどの場合は口からの水分摂取で乗り切ることが出来ます。なお、飲ませる水分としては薄いお茶でいいのですが、下痢がひどいときには腸から失われた塩分を補充するためイオン飲料をあげると良いでしょう。(写真はノロウイルスの電子顕微鏡写真/感染症情報センターホームページより)

